

會務報告

第 29 卷 第 2 號 昭和 18 年 2 月

役員會

第 19 回理事會，第 10 回常議員會（昭 17. 12. 21.）

出席者：草間會長，黒田，鈴木兩副會長，堀越常議員外 3 名，岡野前會長，中村書記長，小野寺庶務主任外 2 名

報告

1. 西部支部總會，役員會議事及視察旅行記事
2. 西部支部事務所移轉
3. 日本工學會許議員會議事
4. 西部支部長に星野茂樹君，華北支部長に田淵壽郎君當選依囑
5. 會誌編輯委員會委員に丹羽良彦君依囑
6. 日本工學會第 5 回大會本會選出委員に青木植男君，菊池明君依囑

議事

1. 特定期間中入會金を免除することとし之を總會に提議することとせり
2. 通常總會を 2 月 15 日（月曜日）帝國鐵道協會講堂に於て開催することとし議案を次の如く決定

總會議案

1. 昭和 17 年度事業報告
2. 昭和 17 年度決算報告
3. 役員選舉の結果報告並に紹介
4. 特定期間中入會金免除の件

「本會ハ昭和 18 年 1 月 1 日ヨリ昭和 18 年 12 月末日マデニ新ニ入會ヲ承認セラレタル正會員，准會員，學生會員ニ對シ土木學會規則ノ規定ニ拘ラズ特ニ入會金ノ納付ヲ免除スルコトヲ得」

5. 土木賞牌贈呈

總會終了後晚餐會開催

3. 昭和 17 年度土木賞牌贈呈論文の選定は編輯部長に一任
4. 中國四國支部昭和 18 年度收支豫算を別紙（省略）の通り承認
5. 關西支部昭和 18 年度收支豫算を別紙（省略）の通り承認
6. 昭和 17 年度更正收支豫算を別紙（省略）の通

り承認

7. 昭和 18 年度收支豫算を別紙（省略）の通り承認
- 第 20 回理事會（昭 17. 1. 11.）

出席者：草間會長，黒田，鈴木兩副會長，青木理事外 5 名，中村書記長，小野寺庶務主任

報告

1. 西部支部役員異動

議事

1. 華北政務委員會股同君靈前へ弔詞及花輪を贈呈
2. 華北支部副支部長に山中良樹君當選依囑
3. 華北支部昭和 18 年度收支豫算を別紙（省略）の通り承認
4. 華北支部昭和 17 年度收支豫算を別紙（省略）の通り承認
5. 華北支部昭和 18 年度特別交附金を 2500 圓交附に決定
6. 第 4 回年次學術講演會費用不足額 395 圓 25 錢を東北支部に交付決定
7. 滿洲土木學會の負擔會費額を昭和 18 年度以降 7 圓 50 錢と決定
8. 昭和 17 年度本會事業報告を別紙（省略）の通り決定
9. 本會名譽會員に丹羽鋤彦，名井九介，那波光雄の 3 君を推舉することに申合せ總會に提議することに決定
10. 昭和 17 年潮害に對する委員會を設置することとし次回具體案を協議
11. 本會地方委員内務省土木出張所長招待午餐會は 1 月 19 日開催に決定

總務部記事

第 29 回對爆調査委員會（昭 17. 12. 14.）

出席者：釘宮委員長，大塚委員外 9 名

協議事項

1. 牧野委員提出資料 2-0-1 火災現象（ゲラ刷）に對する逐上審議を行ふ
2. 河上委員提出資料 1-3-1 爆彈（ゲラ刷）に對しては次回審議

- 3. 河上委員より資料 2-5-2 防護施設, 2-5-3 防空壕及防護室, 2-5-4 防弾建築を提出
- 4. 森田委員の後任として村山朔郎君(森田君推薦)を又新に田中清君を委員に依頼
- 5. 定期刊行物よりの防空關係集録分擔委員を別紙(省略)の通り決定

豊原雄太郎君 中村光四郎君 後藤季總君
 守田 道隆君 田沼 實君 船本貫次君
 加藤 伴平君 大島 太郎君 後藤久吉君
 新任幹事長 桑野賢代嗣君 幹事 加納儉二君
 村上 正君 武田 利雄君 榎本清造君
 岩永 俊彦君

編輯部記事

- 第1回會議編輯委員會 (昭.18.1.13.)
 出席者: 福田委員長, 五十嵐, 岡本, 近藤, 須之内, 星野, 本間, 最上, 米屋各委員, 村上編輯主任, 鹽谷, 梅津, 内村各編輯囑託
- 1. 第28卷第12號登載原稿決定
 - 2. 第29卷第3號登載原稿決定
 - 3. 第28卷第12號登載論文の討議依頼先決定
 - 4. 昭和18年以降用紙減配に關する對策決定

華北支部記事

役員異動

新任支部長 田淵壽郎君當選
 新任副支部長 山中良樹君當選

その他記事

土木學會誌第29卷第1號を發行成規の手續を了し會員に配布せり

西部支部記事

役員異動

新任商議員 安藤善之輔君 佐々木 銑君

入會及轉格會員

特別會員 (入會)

北海道土木建築工業組合 伊藤 豊次 3級

正會員 (入會)

秋月光一 津田季彦 佐藤唯雄 福岡武雄

准會員 (入會)

稻河	松崎	敏整	夫治	大佐	浦藤	正浩	芳三	荒佐	木藤	和寅	市本	隆源	幸吾	金子	正信	實一	總高	田島	晴武	二夫
西水	本田	喜辰	市雄	日村	野手	正英	雄明	多森	田川	元勇	福森	田光	威次	別安	府丈	夫誠	保	前保	村田	郎偉
山崎	恒起																			

學生會員 (入會)

板垣	垣藤	浩教	三藏	小澤	黒村	徳龍	男雄	大網	井島	隆俊	彼谷	義貞	明雄	小柳	正勤	古川	滋政	郎治
齋三	宮部	光敏	夫雄	山梅	村垣	富進	之介	加高	山崎	幸博	山下	昇裕	見誠	二吉	榮一	松芳	政二	治郎
成田	田正			孫丹	羽壽	以治	男	野々	村伸	也五	馬場	章	章	早川	一	中星	三	碩

博一勇敏重男雄一二一治夫美治郎弘郎夫己信壽弘一司一雄親一耳郎夫夫男郎廷稔翠雄昇郎富男司
 慎 英隆壽康忠顯喜清照裕賢太忠八一克利武正主房幸茂秀榮一說茂久三末鼎井村堀本津澤川田
 內見田西藤神西上頭島澤瀨木本谷井藤達生野野葉野生田野反澤摩須施田田井村堀本津澤川田
 山厚稻大貝北小坂田谷中西廣三山大廣遠伊幡水菅千平麻岡河五百詫那布室山虛今大小杉七深宮依
 一信明新英美茂彦吳勳臣雄男志造雄夫敏良學人巖扶夫一雄勳男義嵩次勝明夫彦雄夫雄夫基晴敏平
 昌則保一直隆富邦陸榮峰康四君安秀良重正幸秀武富英倍良正秀總
 下山野田村本竹藤月鳥尾瀨山野田海藤時田野橋山野田端米崎木島田本添野原野林井村田角田
 森秋石小與岸小近醉谷遠西廣丸山植林內近延三菅高島背梅川古下高豐廣宮山吉石小小自中平三山
 雄彦也夫男夫雄也男三良正寬勉一之郎繁夫夫一夫造雄哲司傳修嗣作一三博吾宏郎昭克雄次勇郎進
 岩嘉正敏孝英忠幹清文二照雅次丈數進茂金賀清裕眞靈賢文篤富英
 田田井國野村保池田田居海田田田邊銅邊房村村川橋島木井岩本中川谷山崎田龜藤林村橋本下
 水秋石小荻木久鴻柴竹土西濱前山渡林渡國野松岩高西會今柯栗澤田玉長三山吉池遠小志高原松山
 郎一造三武己辟義忠久己薰武利澄雄稔明讓義一彦守之一吉一二次志義吉一彬市美道茂義男門己清
 二耕健國克信精保欣正喜茂正輝豐和利平良醇甲六英忠重清健久弘幸發嘉克
 得松田田深原藤本山橋屋棟本間下邊井野寬谷川近村山田田野元井口田津能口澤島川林嶋場原角
 三赤生上大木工甲重高土長橋本山渡筒瀨何長細山田永吉市鹿庫堺田種野松山橫飯浦桑櫻高馬松諸
 稔晉遠夫男久一郎實博一作善博昭男稔浩三數二進郎郎男仁郎一幸夫一登夫晉基一勳晴男潔俊治
 一三若鉉一良大三爲州省正耕次一二信武治元豐正哲純正秀慶宗光勝重
 井松井田林崎田山田林藤村內田田神田栗井田木場野藤保野戶端田井馬本田山原波中屋谷
 松赤袋岩大川京小坂田辻中西堀村脇白吉大直藤森佐津森碓加久佐瀨竹新町門山有梅岡柳仙野古森
 亨稔三敏勇善夫三明實雄郎一坦一雄勇男晴德郎郎弘男晴稔雄勝夫彦明雄雄薰作勝男等良春家久一
 善政信幸茂達一吉榮正快興一四忠義義榮繁豐敏義正榮清一知正敏盛德
 屋本上永野井高林口中前谷堀原田城本添藤居野地葉崎野野村藤谷內島木吉村南崎森木部本藤
 星山井今大笠橋小阪田谷中西藤村結河山遠土平南菊千淵天真北近新竹中冬本山阿岩大佐關南藤武

夫勇 吾海文夫
 誠圭 仁正數
 浦吉田 本侯
 三武折 徐塚二
 郎雄 彦順 堯男 夫
 三龍 道萊 贊治 武
 慶山 野 尾坂
 保野 吳陳 藤脇
 久高 岡吳 陳藤 脇
 夫麓 中輔 俊維 壽
 守大 立吉 文經 金
 野木 立吉 文經 金
 大荒 王姜 肇富 劉
 治光 夫雄 壁隆 也
 朝哲 士英 殿勝 也
 藤山 崎内 殿勝 也
 齋豐 岩木 根中 山
 雄勸 穂晃 勇恒 貢
 泰倍 田 豐
 邊井 田松 村 本
 渡勝 稻金 高田 松
 典光 士登 郎充 一
 善敏 浩 新太 充一
 山島 部江 尾見 邊
 横宮 磯角 杉鶴 眞

正會員 (轉格)

夫松 文禰 正
 一 波 田 正
 桐沼 山
 片森 沼山
 郎壽 郎
 三忠 達一
 郎中 藤嘉
 表田 內水
 郎一 男介
 三清 豐 貢
 田藤 西井
 與佐 寺松
 三章 太郎 久
 公木 英太 久
 宮々 丘 又
 都佐 玉 前
 宇佐 玉 前
 雄人 郎 直
 兼正 一 正
 尾部 橋
 岩隈 高 堀
 之雄 一 郎
 信政 三 郎
 藤米 政 三 郎
 藤次 邊 安
 伊久 田 福

准會員 (轉格)

武 尙 崎 吉 雄 正 水 清 孝 木 戶 一 厚 植 村 夫 孝 植 田

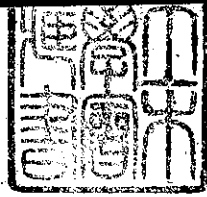
土木學會會員數 (昭. 17. 12. 21. 現在)

名譽會員	正會員	准會員	學生會員	特別會員	贊助會員	合計
2	4643	6481	1616	128	25	12895

正會員 土屋 哲君の訃報に接す 本會は恭しく哀悼の意を表す

准會員 岡田謙太郎君は昭和 17 年 12 月 8 日南方に於て戦死せられたり 本會は靈前に弔詞を呈し恭しく哀悼の意を表したり

准會員 金子 繁君, 中野英一君の訃報に接す 本會は恭しく哀悼の意を表す



會 告

會員名簿調製に就て御願ひ

昭和 18 年度本會々員名簿を作成するに當りまして、正確を期するため會員登録名簿と一應照合致したいと思ひますから、別紙葉書に所定の事項を漏れなく御記入の上、来る 3 月 5 日迄に本會に到達する様御回報願ひます。

從來住所職業その他が變更せられても御通知がないため舊來のまゝ名簿を作成し、實際と相違することが往々ありますのは誠に遺憾に存じます。何卒従前の通り何等變更せられない場合でも、必ず御回報下さる様特に御願ひ致します。

土 木 學 會

會 告

寄稿者へのお願い

本年度の本會誌用紙に對する割當數量は會員數の増加にも拘らず前年度に比し相當大幅の減配となり、從つて會誌頁數も今後相當に減少せざるを得なくなりました。就ては此際會誌内容の減少を防止するのみならず進んで之を充實し、以て會員各位の御期待に沿ひ且つ會誌の戰時體制化を促進致し度く、寄稿者各位に於いて別記投稿規定のうち特に下記に御留意御嚴守の上、從來にも増して簡明有益なる論說報告、彙報、時報等を御寄稿下さる様お願い致します。

1. 論說報告の頁數は圖表等を含み本會誌 15 頁（原稿用紙 90 枚）以内とされたし、圖表等は原稿用紙の相當枚數に換算の上御執筆願ひたし。前記頁數を超過する場合には登載をお斷りすることがあります。
2. 圖表類は代表的なもの又は特に必要なるものを多數羅列するを避けられたし。
3. 別刷は從來通り 30 部を贈呈致します。但し之以上の御申込は遺憾ながらお斷り致します。